

いずもぎき

議会だより

第75号

2012
平成24年4月20日

祝 ご入学おめでとう

3月定例会

もくじ

・ 3月定例会	2
・ 予算審査	6
・ 全員協議会	7
・ 一般質問	8
・ 政務調査	13
・ 町民の声「絆」	14

52億5520万円

1億5800万円減

1億6390万円増

平成24年度 注目事業

一般会計

良 寛堂建立90周年記念事業



70万円

大正11年建立
9月16日式典（予定）

一般会計

行政 栄 養士 設置



267万円

バランスのよい食事を

一般会計

小 学校校舎棟屋上防水改修工事



1575万円

一般会計

マ イクロバス購入



805万円

新しいバスに入れ替え

平成24年度 当初予算

一般会計 32億8400万円 前年度比 4.6%
特別会計 19億7120万円 前年度比 9.1%

一般会計

津 波緊急避難場所整備工事



津波安全対策

1000万円

一般会計

防 災行政無線のデジタル化



防災無線のデジタル化に向けた工事（2年目）

4514万円

特別会計

新 規団地測量費



山谷地内住宅団地造成のため

250万円

特別会計

水道 新 規水源(井戸)工事



取水井戸整備

410万円

3月定例会

(会期 3月7日～16日 10日間)

* 3月定例会で決まった補正予算 *

(△は減額)

会 計		補 正 額	補正後の予算額
一	般 会 計 (第8号)	732万円	36億5419万円
一	般 会 計 (第9号)	△ 803万円	36億4615万円
一	般 会 計 (第10号)	143万円	36億4759万円
特 別 会 計	国民健康保険事業 (第4号)	1361万円	5億9854万円
	介護保険事業 (第3号)	△ 113万円	6億8677万円
	簡易水道事業 (第2号)	△1069万円	1億5310万円
	特定地域生活排水事業 (第1号)	△ 20万円	2080万円
	農業集落排水事業 (第2号)	500万円	1億7860万円
	下水道事業 (第2号)	△ 330万円	2億1670万円
	住宅用地造成事業 (第4号)	△ 235万円	4710万円

定例会では、23年度補正予算並びに24年度一般会計・特別会計予算、条例の一部改正、協定の一部変更、指定管理者の指定、過疎計画の一部変更など議案36件が提出され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり可決しました。なお、陳情1件を不採択しました。

特別会計補正予算

おもな歳出

国民健康保険事業 (第4号)

- ・一般被保険者療養給付費追加……………705万円

簡易水道事業 (第2号)

- ・運営準備基金積立……………1169万円

農業集落排水事業 (第2号)

- ・管路工事……………650万円

一般会計補正予算

おもな歳出 (第8号)

- ・除雪委託料追加……………485万円
- ・小学校校舎屋上防水改修工事設計業務委託料…49万円

おもな歳出 (第9号)

(△は減額)

- ・国民健康保険事業特別会計繰出金追加…3049万円
- ・介護保険事業特別会計繰出金追加……………141万円
- ・道路新設改良舗装工事追加 山谷4号線…1000万円
- ・住宅用火災警報器設置緊急支援事業補助金減…△250万円

おもな歳出 (第10号)

- ・石井町船揚場^{しゅんせつ}浚渫工事……………143万円

人事案件

監査委員の選任

平成24年4月1日から4年間

石川 豊 (羽黒町)

可決した条例改正など

主なもの

◆出雲崎町ゲートボール場設置に関する条例の一部改正

・ 沢田と乙茂のゲートボール場廃止に伴う改正
◆議会の議決すべき事件に関する条例制定

・ 町の最上位の計画である総合計画の基本構想について、議会の議決すべき事件とするため、制定するもの

◆出雲崎町介護保険条例の一部改正

・ 第5次介護保険計画に基づき、平成24年4月1日から（3年間）の、介護保険料を改定するもの

◆出雲崎町特定公共賃貸住宅条例一部を改正

・ 築8年の川西の住宅の家賃を、6万円から5万円にするもの

◆指定管理者の指定について

・ 出雲崎町保健福祉センター（ふれあいの里）を、出雲崎町社会福祉協議会に指定するもの

・ 出雲崎町デイサービスセンターを、社会福祉法人中越老人福祉協会に指定するもの

◆町道の路線認定について

・ 大字井鼻から大字住吉町地内までを、町道ウォーキングロード線として、認定するもの

討論

陳情第6号

「議場に国旗・町旗を掲揚すること」

ことを求める陳情」

不採択に決定

反対

本陳情は郷土に誇りを持ち町の更なる発展のために、国旗・町旗を、行政執行部と住民の代表である町議会議員が、国を愛する、町を愛する大切さを自ら示し町民の模範となり、今後、出雲崎町が更に発展し自立の道を歩んで行けるように、町民が一つにならなければならず、これをもって採択すべきものと考え、不採択に反対するものです。

賛成

本陳情に関して、県内の他町村を見ますと、二つの町で不採択、審議に入らない町村は三町村であり、県内において、議場に国旗を掲揚している町村は一つもありません。

町旗を掲揚している所はありますが、広い議場を持っている所であり、当町は議場も狭く、それなりの国旗・町旗を掲揚するのは、難しいと考えます。

掲揚する・しないに関らず国旗・日の丸は、私達の胸の中にあることに変わりはなく、これをもって不採択に賛成するものです。

議会のつどひ

(主なもの)

(平成24年1月～3月)

1・10 第1回全員協議会
2・16 議会報特別委員会

(議会だより75号)

17 第2回全員協議会
東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所視察

21 新潟県町村議会議長会第63回定期総会(新潟市)

3・1 議会運営委員会
7 議会運営委員会

3月定例会召集日

8 予算審査特別委員会
議会報特別委員会

(議会だより75号)

12 定例会2日目(一般質問)
13 社会産業常任委員会
総務文教常任委員会

16 議会運営委員会
定例会最終日

26 第3回全員協議会
現地調査(新規園芸施設)

議会報特別委員会
(議会だより75号)

予算審査特別委員会

3月定例会は平成24年度の予算を決定する定例会です。委員会で審査された主な内容を報告します。

問 文書広報費で、行政文書などの配達が新しく始まります。詳しい内容は。

答 毎月5日の配布については職員が配達、20日は郵送であったが、24年度から、ふれあいサポートセンターいすもぎきの方々に、月2回の配達を委託するものです。

問 高齢者福祉タクシー券は、お年寄りは大変喜んでおられますが、利用については、タクシーでなくバスでもよいといわれています。バス会社が難色を示しているようですが、一歩踏み込んだ対応ができませんか。

答 バス会社によると、町内だけの路線であれば金券でも対応できるが、郊外に繋がる路線では対応しかねるとの答えです。バスを利用することにより、経費、利用面でもいいことは十分承知しているので、別の方法を検討していきたい。

問 がんばる街なみ支援助成金について、現在どのような方が利用されているのか。

答 天領の里付近で革細工をされている方がおられ、できれば、雪消えに店舗を開きたい、常駐して店を開くには時間がかかるが、店舗改装について支援をお願いしたいとの話があります。同じ考えの方々から、口コミで伝わればありがたいと考えます。

問 木造住宅耐震改修工事等、補助金についてどの位見込んでいますか、また、何故利用が少ないのか？

答 全体的に耐震改修をされる住宅が2件、部分的に改修対象住宅を2件、併せて4棟を見込んでいます。少ない理由については、平成19年震度6弱の地震に対し、家が耐えられたことで、大丈夫という根拠のない安心感があるのでは、住宅の該当する改修住宅が、昭和56年以前の住宅であり、高齢者の方で経済的に余裕のない方が多いと考えられます。1/3が助成されますが、2/3が自前という部分で、改修は必要だ

が高額の出費があり、手が出ずらいのではと思います。

問 防災行政無線で以前聞こえない所があったが、今回の工事で改善を考えたか。

答 今までは、屋外局は親局が21局あったものを、37局に大幅に増した。無線の効く範囲は中心から400mが聞える状態です。全てに建てるのは不可能、住宅を中心に、農業をされている所を中心に、屋外局を拡大しました。人家が密集しているところでは、やかましいとの声もあるもので、實際運用の段階で状況を見ながら、向きを変えたりいろんな形で調整しなければならぬ。

問 学校給食用食材の放射性物質検査の内容は。

答 24年度初めての予算で、この度の放射能事故に伴ない、県から子どもたちの学校給食の食材について、放射線量を測る器械を用意するから、各自自治体の方で検査をしないかとの問い合せがあり、町としても実施することとした。内容については、月1回長岡で、翌日使う食材の放射線量を検査し、異常が無い場合翌日の給食に使うというものです。

問 常楽寺で水質のいい水源が見かかっていますが、どの水道に接続するのか、また、新年度は新たな試掘を考えていますか。

答 常楽寺の本井戸は、小木水系に接続します。また、小木水系では2箇所が開発ができております。さらに、深町団地の山谷側と大釜谷側2箇所が開発できております。この4箇所の井戸の設備工事を進め、早い段階で変更認可を取得供給できるよう進めたい。

問 東日本大震災で一番に困ったのはトイレとのこと。当町の各最終処理場をバイパス化できないか。

答 処理水系が異なるので、基本的には出来ません。過去の震災でも下水管が流れなかった時は、マンホールからマンホールへポンプで圧送しました。処理場の耐震対策を優先し、マンホールポンプの機能保全を順次おこなっていきたいと考えています。

その他、不妊治療、天領の里オープンデッキ、後期高齢者医療特別会計などにも、質疑がありました。

全員協議会

主な質疑について報告いたします。

第1回 1月10日開催

◎ふるさと出雲崎応援寄附金の状況について（総務課）

平成20年の制度開始から毎年、約60万〜700万円の寄附をいただいている。23年は659万円。開始以来の合計は2600万円以上となります。

◎市町村による原子力安全対策に関する研究会について（総務課）

柏崎刈羽原発の安全確保、実効性のある避難計画を検討する、当町を含む県内26市町村で構成する「原子力安全対策に関する研究会」と、県の実務担当者との「原子力安全対策ワーキンググループ」が設置されました。

第2回 2月17日開催

◎柏崎刈羽原発における事故等の通報に関する協定書の締結について（総務課）

東京電力（株）と既に安全協定を結ぶ、柏崎市と刈羽村を除く、県内28町村と2月9日、連絡通報協定を締結しました。

協定に基づき今後は、東京電力（株）から県を経由せずに、町に直接詳しい情報が届くこととなります。

◎（財）良寛記念館の町移管について（産業観光課）

移管日 平成25年1月1日
公設運営開始日 25年4月27日。町への移管によって、施設の更なる充実、強化を図るものです。

◎今冬の降雪、除雪状況について（建設課）

2月11日に最大積雪深95cm（昭和61年以降最大）。車道

除雪23回（過去最高）実施しました。（2月16日現在）
議員からの要望

- ①要介護世帯の除雪補助。
- ②除雪ボランティアの立上げ。
- ③海岸地区の町道の除雪方法の改善（融雪剤撤布等）。

◎23年度町CKD対策事業の実施状況について（保健福祉課）

- ①早期発見への取り組み
- 慢性腎臓病（CKD）対策講演会（21名参加）。尿生化学検査により一日塩分摂取量を試算し、生活改善に生かす活動を実施しました。
- ②CKD移行ハイリスク群へのアプローチと保健指導の充実。24年度に行政栄養士（常勤）を採用します。
- ③人工透析への移行を防止する取組

- ①CKD対策プロジェクト会議を年2回開催。
- ②コメディカル連携会議の開催。
- ③CKD病診連携システムの構築。
- ④かかりつけ医と腎臓専門医との連携の推進を実施しました。

◎石井町宮住宅の建設について（建設課）

若者向け町営住宅一棟をひばりパチンコ跡地に建設します。

第3回 3月16日開催

◎23年度出雲崎宝もの新発見事業の経過について（教育課）

各集落より93点（1次締切）の提出がありました。議員からの要望
「宝もの一覧表」の取扱いを慎重にしてもらいたい。町での保管も検討してもらいたい。



CKD対策講演会（3月10日（土））

一般質問 **おたずねします**
お答えします



宮下孝幸 議員

防災計画について

東日本大震災を機に、当町でも、昨年10月30日に、海岸地区津波避難訓練が行なわれました。

これにより、様々な問題点が確認できた事により、私は次の3点にわたる新たな防災を考えるべきだと思えます。

避難動線の

最短化について

質問 海岸バイパス・背後地から町道に貫ける小路と呼ばれる通りを、避難用通路として整備し、津波発生時における、避難動線の最短化を計るべきと考えますが、当局の所見を伺います。



出雲崎海岸地区の家並み

答弁 避難は時間との戦いと思えます。一度に全てをと言うのは、なかなか無理も生じますが、出来る所から、公道や避難場所なども含め、どこをどのように整備して行くか、検討したいと思えます。

避難確認の目印を

質問 避難時には、地区での声掛け、助け合いなどの、共助が大切です。

答弁 避難済みである事を近隣に知らせるため、避難時に玄関付近の目立つ所に掲げて、地区で避難済み家屋の目印となる、黄色い旗またはシールのような物を配備し、各地区における避難家屋の確認を、容易にする事が、迅速な地区共助避難につながると思えます。配備を検討する考えはあります。

避難所の電源確保は

質問 東北地方でも問題視されましたが、行政が指定する避難施設でありながら、電源の確保が出来ず、被災者の避難生活に大きな混乱と支障をきたしました。

答弁 被災者の最低生活権の確保のため、指定避難施設への非常用電源の確保を、喫緊の課題とする事が、大変重要と考えます。今後、再生可能エネルギー設備などを設置して、非常用電源の確保を考えるつもりはあります。

質問 災害時には、何と云っても先ずは逃げると言う事が最優先です。

答弁 地域における共助は大変重要で、その地域内における共助を、迅速に行うための手段の1つとして、大変有効な方法と考えます。十分検討し、しかるべく対応をしていきたいと思います。

質問 電源喪失は大変深刻な問題で、現在町が所有する自家発電機は、連続運転で3時間程度です。今後、法律で許される燃料の最大備蓄量の、200ℓまで燃料の備蓄を検討し、対応を考えていきます。

現状に合った消防团组织を

地区の現状を考えた 定員の改善を

質問 消防団の重要性については、近年益々その重要性が注目されています。しかしながら、当町においては関係者の努力にもかかわらず、毎年欠員が発生しております。

最大の原因として、部(地区)の世帯数、人口のアンバランスにより、世帯数の少ない部が、毎年欠員を発生していることです。最大約6倍の差があり、毎年、大きくなっています。これ以上、特定の部(地区)への負担は問題であり、早急に町・消防団で改善策を考えるべきであります。

消防団の再編は難しい

答弁 この問題については、以前に2議員からも質問があり、今回の質問に関しても、



三輪

正 議員

消防団幹部の方の意見も聞いております。結論からいうと、再編は難しく、各種対応で欠員の解消に努めてまいります。

24年度から「特別団員制度」がスタートします。この制度により、欠員問題はかなり改善されるかと考えています。

消防団OB隊の発足を

質問 団員確保のため、地区によつて年間、各戸2千〜3千円負担しています。

初期消火、欠員解消のため、消防団OBの方による「OB隊」の発足を検討すべきと思いますがいかがですか。

特別団員制度で対応

答弁 OB隊は形を変えた特別団員制度に通ずるものであり、自主防災組織での消防団経験者の活動にも通ずるものと思っています。

自主防災組織の現状と

連携について

質問 町では平成20年度より自主防災組織の発足に向けて、各集落に呼びかけているが組織状況はどうですか。

また組織の重要性は今後、益々大きくなると考えますが活動の強化について、行政、消防等の連携のあり方についてどのように考えていますか。

組織率は91%に

答弁 65ある行政区のうち、組織は59地区で組織されています。又、世帯数でも行政区とはほぼ同じです。

組織の活動強化を

質問 クリーン作戦の時などに、消火栓や消火器の取扱講習の実施や、防災士の育成などを考えるべきであると思いますがいかがですか。

防災士の育成に努める

答弁 自主防災組織を通じて、各種の活動をお願いしていきます。防災士は当町では4名おりますが、さらに育成に努めてまいります。



消火栓取扱い講習
クリーン作戦時(船橋地内)

滞在型観光と観光立町は



田中 一元 議員

滞在方法と

施設の充実

質問 施政方針で、地域資源を生かした、着地型観光商品の開発により、通過型観光から、滞在型観光を目指し、誘客による地域の活性化をはかるとあります。滞在型観光は地域の産業観光には、喜ばしいことです。町内の状況は、滞りする施設が少ないと思います。滞在の方法、施設の充実について今後どう進めていくか伺います。

答弁 現在の観光客は観光スポットを見て、帰られるのが大半です。滞在型観光は、リピーター客をいかに呼びこむかが最大の目標だと思います。

現在、出雲崎では、民宿、旅館を含めて、200人強の人が宿泊できるスペースがあります。今の社会情勢と近隣の充実した宿泊施設もあり、温泉を掘り宿泊施設を作る

ことは経営が難しい。当町は、民宿を中心とし人とのふれあいの中で、接待をしリピーター客の増える可能性を考えています。大きな施設はないが、それなりの対応されている方々から、頑張っていただき、特色あるお客さんがこれらるのではないかと、観光スポットを探しながら、大勢の方から滞在、お泊りいただく努力をしていただきたい。官・民で力を合せて、頑張らなければならないと思います。

質問 官・民で力を合せて努力しなければならぬことは、理解でき、民間活力の努力が必要といわれるが、特に民泊に対する行政のテコ入れの考え方はありますか。

答弁 民宿・旅館業を営む方々から、立場における売り込みをし、

リピーター客に来ていただくのが大切です。

行政として、妻入りの街並み整備、良寛記念館が町直営になり、誘客に対する効果がでてくると思っています。ユニークな製品づくり、頑張る街並み整備（上限100万円）等の助成もしており、1人でも多くの方々から、出店してもらおう努力をしています。

観光立町の予算付は

質問 観光立町を目指す本町の新年度予算で、観光費が約1700万円の減額です。大きな減額で観光立町を続けていかれますか、伺います。

答弁 前年との実質的な予算額は変更がありません。中越沖地震の復興基金等が終了し町の財政上からの減額はありませぬ。

質問 平成23年度中止になった、天領の里でのこいのぼりについて

は、一般町民からお譲りいただいたものがあります。新年度にあらたに実施するものと、期待をしていましたが、実施されなかった理由について伺います。

答弁 天領の里に柱を建てこいのぼりを掲揚し、一定期間のあと撤去すると、柱だけのこりまです。観光スポットとして景観がくずれてしまう、原点に返って改めて検討し、実施したいと思えます。



妻入りの街並にお店を

出雲崎の将来について



諸橋和史 議員

質問 出雲崎が存続するため

に、10年後、20年後について、お尋ねします。長岡北ス
マートインターからむ国道
352号の改良、バイパス化、特
に米田、石井町間の改良につ
いて、進捗状況について、町
長の考えをお聞きます。

答弁 352号米田・石井町間につ
いては、当初計画を変更
し、現道の改良で進んでおり
ますが、東日本大震災に伴い
財政が悪化しており、公共事
業を中心に、大変厳しい
状況です。スマートインター
や三島地内のバイパスも必要
ですが、出雲崎地内、特に、
展望坂を中心とした道路改良
を最優先に、事業化を考えて

います。

質問 六郎女地域の基盤整理
も最終段階に入りました。未
整備地の基盤整備を、中山間
地基盤整備で実施するとな
ると、予算規模が小さく、整備
が遅れます。担い手育成、21
世紀型農業の基盤整備を、取
り入れる考えはありません
か。

答弁 中山間地総合整備事業
は、次は八手地区を考えてい
ますが、新規採択は難しい。
国はT P P問題をにらみ、新
しい農業政策を打出した、地
域農業マスタープラン、担い
手育成や、耕作面積の集積
化、足腰の強い農業の推進で

す。中山間地での事業は厳し
いため、新しい施策のマス
タープランで、基盤整備を実
施しなければならぬ、地元
の皆さんの理解をいただき、
全力をあげ事業化にむけ、徹
底的に実施します。

質問 東京大学で、9月入学
を検討していると、報道があ
りました。小・中学校にも関
連してまいります。行政とし
ての、考え方をお聞きます。
答弁 国の方針が出てくるま
で、静観しながら、柔軟に対
応していきたいと考えます。
質問 柏崎刈羽原発の長期展
望について、町長が条件つき

で、再開を認めるというラジ
オニュースを聞きました。原
発の耐用年数は40年から60年
と言われています。福島的事
故については、検証がまださ
れていません。子供、孫のた
めにも、耐用年数の過ぎたも
のから廃炉にすべきものと思
います。

答弁 柏崎刈羽原発視察で、
原子力はベースロードエネル
ギーとの説明を受けました、
事故が発生したから、原子力

を否定するものではありません。
専門的知識を持った方々
の十分な検証、それに対応す
る判断、結果の公表がされた
時、原子力を将来のエネル
ギーとして、当面は考えるべ
きと思います。安全性の確保
を大事にしなければなりません。
議会、住民の皆さんの意
向も見定めながら、進路、結
論を出していかなければと
思っています。



急カーブで狭い (三島地内)

東日本大震災で発生した がれき処理について



田中政孝
議員

質問 昨年3月11日の東日本大震災から、1年が経ちました。私はテレビを見て、現実とは思えない光景であり、このようなことが起こるとは、とても考えられませんでした。一瞬のうちに家屋や自動車・船とあらゆる物が流される様は、現実なのか再三自分の目を疑いました。

被災地の復興が進まない第一の原因は、がれきの処理が進まないところにあります。受け入れを表明している自治体は大変少なく、住民の理解を得るまでには、至っていない状態です。

推計で2252万トン、このうち処理が済んだものは117万トンで約5%、6%です。がれきは通常の10年から20年分が仮置き場に集められ、被災地での処分能力をはるかに超えた量であります。環境省は平成26年の3月末まで、処理を終えると言う目標

を持っていても、極めて厳しいと発言しております。全国自治体アンケートでも、市町村の33%が現時点で困難、52%がまったく考えていないと回答し、全体の86%が難色を示している状態です。本県においても、具体的な検討を進めているのは新潟、長岡、柏崎、三条、新発田の5市であり、がれき処理は緊急を要すると思います。

エコパークを抱える自治体として、町長はどのように考えるか伺います。

答弁 がれきが処理されない以上、復旧・復興は進まないことは承知しています。

エコパークを受けるにも苦渋の選択をした。それぞれの団体、また、皆さんから受け入れるべきでないという強硬な申し入れがあり、住民の理解を得るには非常に難しい。エコパークとの協定書の中で、県



がれきの山

外の廃棄物は受けられないということになってきているので、今のところ受け入れる意思はありません。今後、国・県などの新たな事態が発生すれば、そ

れなりに対応しなければならぬと思うが、現段階で軽々に、前向きに検討するとはいえません。

政務調査

去る3月21日・22日 岩手県釜石市を中心に調査をしてきました。今回の行程に関係した、市町の被害状況は表のとおりです。

		死者 (人)	行方 不明者 (人)	がれき 推計量 (千t)	仮置場搬入 済量(千t)	搬入率 (%)	処理処分量 (千t)	処理処分 割合(%)	処理処分 目標期日
宮 城 県	松島町	2	0	43	44	103	30	70.9	H26年3月
	東松島市	1047	58	1657	1157	70	37	2.2	H26年3月
	石巻市	3182	553	6163	2982	48	467	7.6	H26年3月
	女川町	575	340	444	280	63	144	32.5	H26年3月
	南三陸町	565	280	560	322	58	10	1.8	H26年3月
	気仙沼市	1032	324	1367	1349	99	25	1.9	H26年3月
岩 手 県	陸前高田市	1555	240	1016	934	92	92	9.0	H26年3月
	大船渡市	340	84	756	715	95	239	31.6	H26年3月
	釜石市	888	158	762	381	50	16	2.0	H26年3月

(平成24年3月19日現在)

一番感じたことは、風光明媚なりアス式海岸が、湾や入り江の構成により、被害状況に差異が見られたことと、大きな特徴は、地震による被害が少なかったことです。
また、報道でもいわれられておりますが、復旧・復興を妨げている要因は、津波による堆積物・がれきの処理が遅れていることです。

表にもあるとおり、仮置場への搬入は進んでおりますが、そこから先が未だ不透明で、国は、がれき処理費用の全額負担を表明し、全国の自治体に協力を要請しております。
釜石市では、北九州市から復興推進本部に出向されている方から、釜石の現状と、今後の具体的戦略について、説明を受けました。

「釜石港では、1mの地盤沈下となり、建物がまばらに残った。昨年12月に復興計画の骨子を示したが、まだ合意できていない。また、防波堤のカサあげや作り直しに関し、いまだに県の指示がない。地盤沈下については、砂利を敷き、砂を積み上げることにしているが、どこまで作業ができるのか」と先行き不安の様子でありました。

釜石市の災害廃棄物の発生量は、約82万t、既撤去率は、約60%、解体対象建築物は、約1000戸です。また、廃棄物の構成は、コンクリート43%、不燃物28%、木くず16%、可燃物6%、鉄類3%などとなっております。

今後の方針として①迅速な災害廃棄物処理(撤去主体から撤去と処理へ)②地元資源の活用(土地・施設・技術)数値目標として、資源化率50%~70%、地元還元率50%以上、総事業費は、約300億円の見込み。

今回の調査で、予想はしていましたが、がれきや廃棄物の処理が進まないため、復旧・復興に向けた戦略に苦労されておられることが、よく理解できました。安全基準を明確にし、きちんとした資料に基いて説明していかなければ、被災地は救えないし、復興も遅れるばかりで、大変な状況にあることを痛切に感じました。

(山崎 信義)



行き場のないがれき

町民の声

「絆」



米田 矢川 正夫



きずな（避難者との交流会）

東日本大震災が発生した昨年、今年の漢字に「絆」が選ばれました。日本はもとより全世界が被災地に同情と支援を惜しまず、それが「絆」という言葉に要約されました。思いやりあふれる秩序、正しく理性的な行動を示した被災者の連帯の強さに、海外のメディアはこぞって賞賛を惜しみませんでした。人とのつながりは最大の財産であり、何物にも代えがたい心豊かに暮していく糧となることでしょうか。

私達もこれから過去の災害の教訓を生かし、向う三軒両隣のささやかな「絆」をはじめとして、その輪を広め、いざという時のセーフティーネットにしたいものです。

福島から新潟県に避難された方が、「人生はまさかの坂も自分なりに楽しく登りたい」といわれた言葉が印象的でした。被災地とながる同じ空の下にいることを忘れずに、私達も迷い、悩み、楽しみながらあの坂この坂をゆっくり登りたいものです。

表紙の小話



お父さん、お母さん、上級生に見守られて、緊張するピカピカの一年生、はじめての大きな式で、国歌、校歌を聞いていました。それでも、自分の名前を呼ばれた時に、元気に返事をする姿は、私には頼しく、可愛いくみえました。

今、社会は大変厳しい状況にあります。この新入生が、社会人になる時は、高齢化社会がもつと進んでいるでしょう。わたくしたち大人が、行政・議会・町民が一致団結して明るい未来に向かって、努力してゆかなければならないと思います。今年は例年よりも、春の訪れが遅く、農作業が心配されます。春の息吹を待つとともに、一年生に元氣・明るさをもたらした入学式でした。（田中 元）

編集後記

平成24年度に入りました。新年度予算は3月定例会において、可決、成立しました。

景気低迷の中、行政はすみやかに予算執行をして、町内の各種産業の活気づけに、向けてもらいたいと思います。議会と行政が切磋琢磨しながら、町の活性化に向け努力して、町民の皆様にも協力してもらい、街の元気につなげていくことが大切です。議会だよりの編集員も編集を通し、町民とのパイプ役として、御意見、要望をいただいで、編集に取り入れたい、議会の意見の集約に努めたいと思います。

（田中 元）

議会だより

発行予定

発行日 7月・10月・1月20日
ころ